

幼稚園の現場から

鶴谷主一

原町幼稚園（静岡県沼津市）園長

私の勝手なイメージですが

対人援助マガジンに幼稚園という立場から原稿を書かせて頂くという話を聞いたときに「え？場違いじゃありません？」と感じました。テレビ番組に例えると、報道部門の集まりにバラエティー部門の人間が混じってしまったようなイメージ。福祉の世界と較べると「幼稚園は軽くてスイマセン! (>_<)」というようなイメージを自分で持ってしまうているからなのです。

以前、教員養成校（短大）の就職ガイダンスの集会に出かけたとき、保育園や養護施設の先生方と話をする機会があり、そのときにこのイメージは作られました。

私立養護施設の先生は学生たちに向かって「ウチの施設にはかわいい子どもはいないので、それでもよかったら就職を希望してくれ! 」という発言をなさっていました。学生へ覚悟を求めての発言だということはあきらかですが、『天真爛漫』などという言葉はたぶん当てはまらない子ども達と相対さなければならない職場だということは伝わってきます。

次に、保育園の先生は、ひとり親の子どもの問題や、子育てに無関心、家庭環境の悪化など親の関わりを要因とした問題が多いので、保育（教

育活動）をする以前に子どもの心のケアをまず考えなくてはならない、という話をしておられました。抱えている問題の深さが私たち幼稚園とはゼンゼン違うということを改めて実感する出来事でした。

私の幼稚園はというと、全く問題が無い訳ではありませんが、基本的には親との関わりが良好な子どもたちが通ってくる場所なので、大半の子どもは安定していますから“楽しい経験”を通して発達を促すというスタンスです。学生には「かわいい子どもたちと日々を過ごしつつ、楽しく仕事をしよう! 」と呼びかけます。ですから、幼稚園の現場では取るに足らない問題ぐらいしか転がっていないのに、何を書けばいいんだろうか? と迷っていたのです。



「問題」を発芽させない

私は編集長から執筆をお誘い頂いて、何日も「対人援助」ということばを頭の中で転がし続けた結果、そういえば幼稚園にも対人援助という切り口で語ることもあるな、あながち蚊帳の外の人間ではないかも? と思い始めています。もっと言うと、問題があるから対人援助が必要、という発想そのものが間違っていたのでは? ……というところまでたどり着きました。

問題を顕在化させないための人づきあいのようなものも対人援助だったりするのかな、とも考えが広がってきました。(広げすぎかもしれませんが) そんな訳で、子どものことだけでなく、システムや運営について、保護者への説明方法や経営手法、そのへんの分野では幼稚園園長にも書くことができそうです。皆さんの持つ幼稚園というイメージのイメージ再構築の一材料として、バラエティー的ではありますがレポートさせて頂こうと思っております。メインディッシュの箸休めのようなページになれば幸いです。



* さて、今回は私が園長として経験した「対人援助」らしきエピソードを二つレポートさせて頂きます。

エピソード1 : 始業式で

一つは、今年の年度初めの話。始業式で子どもたちに園長として話をしなければなりません。いつもなら、お決まりの話をしてオシマイってところですが、「子どもに対しての対人援助って何だろう?」なんて考えていたものですから、あれこれ思案しておりました。

導き出された結論は、

「こちらの伝えたいことを、子どもが納得できる方法で伝えること」

そんなことは基本中の基本ですが、いつもと違う+ の工夫をしてみました。

伝えたいことは次のような内容です。

「新年度一つ大きくなった年中組(4歳児)、年長組(5歳児)の子どもたちに、新入園児の小さいお友達に三輪車を譲ってほしい。言われたからじゃなく、自分の気持ちで行動してほしい。」という内容。言われたからじゃなく、というところがミソです。どういう言い方をしても「言われたから」という動機がついて回ることは明らかです。

そこで、画用紙を切ってウチワ大のハート型を作りました。表はピンクで裏はグレーを貼り合わせてあります。そして、先生達に手伝ってもらってロールプレイをしました。三輪車に乗っている子ども役の先生Aに、新入園児役の先生Bが乗せ

てくれと頼みました。Aくんは「あともう一周したら替わってあげる」と言って、少し間を置いてから替わってあげました。このときに、笑顔満面のBくんの胸にピンクのハートを持たせます。そして、BくんはCくんに替わってあげて、次はDくん・・・というように、ピンクのハート(嬉しい気持ち)がバトンタッチされていく様子を表現しました。「Aくんが三輪車を1回替わってあげただけで、こんなにハートがバトンタッチされたね、嬉しいね! 」というオチです。

見えないものを可視化したところ、子どもたちの興味はぐんと上がってよく話を聞いていました。だからといって効果はそんなに変わらない様子ですが(^_^;) (ソガコトモ!) ピンクの?は目に焼き付いたことでしょう。

ちなみに、人に嫌なことしたら・・・というシチュエーションではグレーのハートを使って同様にロールプレイを行いました。



エピソード2 : 上客とは

もう一つのエピソードは、保護者からのクレーム処理で印象深かったできごとです。

ある日、園長あてに長いメールが届きました。

概要はこうです。「私は毎朝子どもを送り迎えしているが通園バスの先生からは無視されている。なぜならウチは母子家庭で、私はその子の母親の弟(子どもから見ればおじさん)で、一般家庭とは違うから世間から白い目で見られている。そんな園児がいること自体園にとっては品位が落ちるだろう、そんな上客ではないので、理不尽な扱いを受けるのだ! 」という怒りのメッセージです。

これには思案しました。実際には無記名でしたが誰だか予想はつきました。担当の職員の態度を丁寧にするだけならすぐにでもできますが、「白い目でなんか見てないよ! 」ということメールで返したところで空々しいだけでしょう。かといって、無記名のメールをもらってるのに さん、直接会いたいですけど・・・という訳にもいかない。しかも明日の朝には改善しなければ長引いてしまう!

私は、別の価値観を提示しないといけないと考え、職員が至らなかったことの謝罪に加えて「私園長にとって上客でない園児というのは、保育料を滞納する方です、だから保育料をきちんと納めている限り、家庭環境如何は関係ありません」という返事をしました。

もし他の保護者にそんなこと言ったら何をかいわんやですが、このケースでは的確な答えだったようです。「苦笑気味に、ウチは保育料は滞納していないはずです」との返事が来て、職員の適切な行動もあり、最後はお礼メールが来て解決しました。

その後、お父さんは誰? が知りませんが(>_<)、

下の子が生まれて入園してくれました。保育料もきちんと納まっています。(^.^)。語りかた一つで決裂しそうな、緊張感のある経験でした。



学校法人松濤学園 原町幼稚園
定員 200名 6クラス
幼稚園歴 27年(内園長歴 8年)
<http://www.haramachi-ki.jp>



ツルヤシュイチ

写真と文章は関係がありません。